



「開国博Y150通信」(第4号) ～ マザーポート特集～



「開国博Y150」は、『海』、『街』、『自然』が生きる横浜の3つのエリアで横浜の魅力、歴史、未来を満載した大祭典を繰り広げます。ベイサイドエリア(みなとみらい21新港地区周辺)は、横浜の原点でもある海と港の景観の中に、大型エンターテインメント展示、大型映像、催事会場などを多彩に展開。夜間は華やかなナイトショーやライトアップが賑わいを演出します。

ヒルサイドエリア(よこはま動物園ズーラシア隣接地区)では、豊かな自然の中に子供から大人までが集まり、ワークショップをはじめとする様々な市民創発プログラムを展開します。マザーポートエリア(横浜駅周辺～山下・山手地区)では、横浜の繁華街と商店街が連携し、エリア内回遊ルートマップ「たねまるマップvol.1」など街全体が活気に溢れます。

開国博Y150アクセス案内

B ベイサイドエリア みなとみらい21新港地区周辺
会期：2009年4月28日(火)～9月27日(日) 10:00～22:00
※一部会場を除く
みなとみらい線「馬車道駅」または「日本大通り駅」から徒歩5分もしくは 同「みなとみらい駅」から徒歩10分
JR・市営地下鉄「桜木町駅」から徒歩10分

M マザーポートエリア 横浜駅周辺～山下・山手地区
会期：2009年の年間を通じて展開
みなとみらい線 横浜～元町・中華街間各駅 下車
JR 横浜～石川町間各駅 下車
市営地下鉄 横浜～伊勢佐木長者町間各駅 下車

H ヒルサイドエリア よこはま動物園ズーラシア隣接地区
会期：2009年7月4日(土)～9月27日(日) 9:30～17:30
※但し、8月の毎週土日及び9月19日から27日の9日間は、9:30～20:30
相鉄線「鶴ヶ峰駅」「三ツ境駅」または
JR・市営地下鉄「中山駅」から「ズーラシア行」バスで約15分

※Y150会場には専用駐車場がございません(団体バス等を除く)。また、会場周辺の道路は混雑が予想されますので電車・バス等でご来場ください。

－ 報道関係者 問い合わせ先 －

－開国博Y150広報事務局 金垣・麦谷・平手－

TEL 03-3403-5139 FAX 03-3403-0508 E-mail:y150@ozma.co.jp



いよいよマザーポートエリア 2009年1月よりスタート 第1弾として、エリア内回遊ルートマップ「たねまるマップvol.1」、 好評配布中！

マザーポートエリア(横浜駅周辺～山下・山手地区)では、開港150周年の2009年に横浜を訪れる市内外からの来場者が、「開国博Y150」だけでなく、横浜の街全体を楽しめる様々なプランを、行政・商店街・企業・市民が協働で準備中です。

第1弾として、2009年1月より地元横浜市民のオススメスポット情報などを盛り込んだ、エリア内回遊ルートマップ「たねまるマップvol.1」を配布中です。

また、「開国博Y150」やエリア内観光情報を発信する多機能情報ステーション「たねまるポット」もスタート。その他、会期中には知られざる横浜の魅力を発掘できる「たねまるマップvol.2、vol.3」、Y150入場券提示で文化施設やショップが割引になる「特別優待(割引)サービス」、マザーポートエリア内を巡って賞品が当たる「たねまるスタンプラリー」、市民ボランティアによる横浜ガイドツアー「ヨコハマまち歩き150 ～Y150マザーポートまち歩きコース～」(有料)など、地域・イベントとの連携など地域や商店街の協力も得て多彩に展開されます。

今回は、マザーポートエリアを盛り上げる横浜中華街、元町ショッピングストリート、NPO法人横浜シティガイド協会の方々に、横浜の魅力、「開国博Y150」の楽しみ方について、お話を伺いました。

「マザーポートエリア」展開概要

◆エリア内回遊ルートマップ「たねまるマップ」

・「会期前マップ(vol.1)」(2009/1月～2009/4/27)と「会期中マップ(vol.2/vol.3)」(2009/4/28～9/27)の3種類のマップを制作。「たねまるポット」や市内各所で無料配布。

◆多機能情報ステーション「たねまるポット」

・回遊目印としてエリア内に設置(2009/1月～9/27)。「たねまるマップ」や各種チラシ、「たねまるスタンプラリー」のスタンプ台などを設置。

◆「たねまるスタンプラリー」

・会期中、エリア内の「たねまるポット」をまわって、スタンプを集め抽選会に応募。

◆「ヨコハマまち歩き150 ～Y150マザーポートまち歩きコース～」(有料)

・会期中、マザーポートエリアの楽しみ方を、横浜ガイドの案内で市民や観光客に実際に歩きながら感じてもらう。全12コース。

◆特別優待(割引)サービス

・会期中、文化施設(博物館など)、観光スポット、会場交通機関など。Y150入場券提示が必要。



「たねまるマップvol.1」

「たねまるポット」



協同組合 元町SS会
理事長 三藤 達男氏

◆横浜のオススメ街歩きコースは？

一番のオススメは、山手から元町にくだり、歴史を肌で感じるコース！山下公園やフランス山から「港の見える丘公園」や外国人墓地の脇を通過して、山手を散策。異国情緒をたっぷり味わえる場所です。さらに、代官坂を通過して、元町公園を見ながら、元町を散策した後、中華街へ行き日本大通へ。これは、丸一日要するコースですが、「開国博Y150」に遊びに来た人々には、ゆっくりと横浜の魅力を満喫して欲しいです。横浜は、水道やクリーニング、ビールなどの発祥地でもあり、山下公園は、150年前黒船のペリーが初めて横浜の地に降り立った場所。従来の博覧会とは違う雰囲気をもっと味わってほしいです。

◆文化を感じられる、元町ショッピングストリート

来場者には、是非横浜の文化も感じて欲しいです。元町が注目されたのは、何と言ってもハマトラ。当時は、フクゾーの洋服を着て、ミハマの靴を履いて、キタムラのバッグを持つというのが流行でした。そこにスタージュエリーも付ければ、完璧な“ハマトラスタイル”。

今年は、Y150限定品を各店舗で1点ずつ考案し、約40点発売する予定。黒船にちなんだ商品など、横浜色溢れる品々をお楽しみに。



元町ショッピングストリート

◆“元町ショッピングストリート”の魅力はずばり！

元町ショッピングストリートの歴史は、開港当時までさかのぼります。山手居留地に外国人が住むようになり、外国人を対象に商売を始めたという経緯もあり、開拓精神がとても強い商人がいる商店街です。街を活性化させるため、全国初の試みとして、福引の実施やキャラバン隊を組んで、全国に元町の商品を売りに行ったこともあり、全国から注目されました。年に2回開催される「チャームセール」は、毎年多くの人を楽しみにしています。

商店街が誕生して150年。街の建物や店舗などは移り変わりましたが、“自分のところで買って売る”、“商品に責任を持つ”。いいものをお客様へ紹介していくという先人の想いは、今も変わらず後世に伝えられています。“変わらない想い、変わっていくストーリー”を合言葉に、様々な人々に愛されるよう、今も活気に溢れています。



横浜中華街発展会協同組合
理事長 林 兼正氏

◆横浜中華街のはじまり

開港当時、開港5カ国(※)の人々が、暮らしていくための西洋の技術を持ち、外国の言葉を喋れる職人を中国から連れてきたのが、中華街の始まりです。彼らは通訳のほか、西洋人の洋服を作ったり、食事を作ったり、銀細工を作るなど、生活や貿易などに関わる様々なことを行い、すべての西洋文化は、中国人から日本へ伝わりました。彼らは、英語をはじめロシア語、オランダ語なども流暢に話すこともでき、かつ貿易交渉もできる超エリートでした。それから、150年間をかけて様々な技術が日本人の手に渡り、洋裁、料理、洋館、理髪など、世界レベルの技術を取得できるようになりました。この150年間は、実はゼロから始めて、世界のトップグループに日本人が加わった歴史そのものなのです。

※開港5カ国：アメリカ・オランダ・ロシア・イギリス・フランス

◆横浜を見直すキッカケに

このように、横浜はゼロから150年間で世界のトップクラスの国に成長しました。それをもう一度見直そうというのが、われわれの150周年の祝い方です。開国当時、日本という国は何もありませんでした。あるのは日本人という人材だけ。中国人が様々な西洋文化を日本人に伝え、たった150年でグローバルで優秀な国になりました。「開国博Y150」を訪れる人々には、この事実をもう一度知ってもらいたい。特に若い方には、「日本はこんなにすごい国なんだ」と、是非自信を持ってもらうきっかけになればと願っています。



横浜中華街最大のお祭り「春節燈花」

◆進化していく横浜中華街

中華街はテーマパークではありません。地元市民や横浜を訪れるお客様にリピーターとして来てもらう、横浜のダイニングなのです。そうでなければ、今後150年も続かないでしょう。そのためには、先人たちが創った文化のうち、3分の1を刈り取り、3分の1はそれを進化させ育てる。残りの3分の1は、新しい時代に合わせた種を植えつけることです。

今後、横浜中華街は、発展ではなく進化させるべきだと私は思います。先人が創った文化を生かしつつ、生き続けるということが大事。この積み重ねを継続していけば、横浜中華街を訪れたお客様に「また、来たい」という感動を与えることができると思います。



NPO法人横浜シティガイド協会
副会長 嶋田 昌子氏

◆「ヨコハマまち歩き150」の醍醐味とは

「開国博Y150」で横浜シティガイド協会が協力するのが、マザーポートエリアの石川町・関内・桜木町とベイサイド会場との間の往復ガイドツアー、「ヨコハマまち歩き150」です。マザーポートエリアの文化と歴史、芸術を、是非横浜を歩くことで知ってもらいたいと思います。例えば、山手からくぐれば元町があり、元町から橋を渡れば中華街があります。また、中華街から海側に向かえば港があり、港からひとつ橋を渡ると、もうそこには横浜赤レンガ倉庫があります。これが歴史的な景観を非常に色濃く映している場所で、さらにそこからまた橋を渡るとみなとみらいが開けています。

ひとつひとつテーマがあり、異なった顔を見せる街が連続している。そこを歩いてもらうことが面白い。見どころは歩かないとわからないのです。

◆知られざる横浜の絶景ポイント！

横浜の観光時間は延びています。昼間の観光、夜のライトアップはもちろん、朝にはヨガと太極拳を行い、その後中華街でおかゆを食べたりします。また、夏は昼間の時間帯が長く、夕方5時からでも十分観光ができます。このように、横浜の観光はさまざまな視点から楽しめるのです。

今回「開国博Y150」では、マザーポートエリアにてガイドを行います。今後ヒルサイド会場から中山駅へのガイドツアーも考えています。2km強を徒歩で約40分。ヒルサイドエリアは、土日は常に渋滞ですが、中山駅へは緑陰の中を行く一本道のため、是非歩いてもらおうと考えています。というのも、横浜の面白さは、都心部とその裏側にある緑だと思っています。東京から20分電車に乗っても畑はない。しかし横浜は、例えば妙蓮寺あたりに有機農法を行っている谷間があったり、港北ニュータウンでは、農業専用地区で町が囲まれているのです。

◆“ポスト150”

“ポスト150”という言葉が既に叫ばれています。「開国博Y150」の中で、何かを創り上げたものが今後の横浜にどのように反映するかということです。「開国博Y150」で終わりではなく、そこから始まりです。会期中、盛り上がったとしても、それをどこまで持続させるかということが課題でもあるのです。



「ヨコハマまち歩き150」の
各コースを取材する市民

※NPO法人横浜シティガイド協会とは、市内全域をガイドする団体です。
市民の視点から眺めた故郷横浜の変貌を、歴史的な要素や新しい情報をお話の中に交えながらご案内しています。
(<http://www.vcga.com/>)

ヒルサイド Y150つながりの森 創発市民メンバー紹介

『ヒルサイドエリア・Y150つながりの森』では、横浜市旭区の「横浜動物の森公園」の中、「次世代」、「自然」、「アート」などをテーマとする150のプロジェクトが展開されます。『私からはじめる150年』を参加テーマに集まった市民スタッフが、2008年1月にスタートした創発支援プログラムにより、様々なカタチの『対話・参加・体験できるプロジェクト』を開発中です。そのメンバーをご紹介します。

たねまるの北タイ暮らし体験

【出展場所・時期】竹の海原 つながりの広場[9月15日～27日]



山本 博子
(やまもと ひろこ)

12年ほど前からNGO「アジアの女性と子どもネットワーク」で、アジアを中心とした女性と子どもの人権を守るための教育支援活動をしてきました。月々わずか1,000円ほどの学費も払うことができず、学校に行けないアジアの子どもたちがいる事実を知り、それまで自分の子どものことは一所懸命に考えてきたけど、他人の子どもに思いを馳せることがなかったことに気づき、周りの人のことを考えられる人間になりたいと思ったんです。

以来、年に何度かタイへ向かい支援してきましたが、その活動をどのようにヒルサイドで表現するかと悩んだ末、150年前の横浜にワープしたようなタイ北部の自給自足の生活を「たねまる」と一緒に写真撮影しパネル展示することを考えました。さらに、「児童労働すごろく」も作る予定です。自然と共存し、人々が助け合う暮らしをしていても、学校に通えない子どもがいること、時には児童労働に巻き込まれる場合もあるという、「150年昔の話ではなく、現在進行形のことである」ことを知ってほしいです。

とりかえっこしましょ チャ×3

【出展場所・時期】竹の海原 つながりのステージ[9月22日]



渡辺 藤子
(わたなべ ふじこ)

横浜開港時から曾祖父が住んでいたことが、今回のイベントへの参加を決めるきっかけと語る渡辺藤子さんは、日中はケアマネージャー、夜間は定時制高校の音楽講師をしています。「学校の生徒と話をしている、私は昔より今の方がずっと楽しいと言うと、そんなはずはないって否定するのです。理由は、大人になるにつれて、だんだんダメになるから。今が一番で、この先はいいことがないと思い込んでいるのです」。

そんな若い世代に対して何かできないかと、出会った人同士、面と向かってコミュニケーションを大事にするゲームを考えています。つまり、ゲーム自体をその場に集まってきた人たちで作ってしまおう、集まった人からゲームを生み出すパワーを引き出してしまおうと画策中。道具を使わないこと、その場で自分の思いを伝達して、多くの人との交流をはかり、それぞれの相手の大事なものと交換します。仲間はずれになることを恐れている若い人たちと一緒に、この大胆な出会いのゲームを一緒につくってみたい方、現在メンバー募集中です。*詳細はヒルサイド市民参加事務局まで。

『コスプレ』の素敵な使い方♪ コスプレに触れてみよう♪

【出展場所・時期】竹の海原 つながりの広場[8月18日～24日]

【出展場所・時期】竹の海原 つながりのステージ[8月23日、30日]
風の広場 [8月22日]



園田 明日香
(そのだ あすか)

最近になって「コスプレ」は認知されてきましたが、これはアニメなどの登場人物のキャラクターに扮する行為のこと。マニアやオタクが行う怪しいものと思われがちですが、園田さんはそうではないと主張します。以前、勤めていた会社の同僚とは知識的な話題がなく、鬱々としていたときに出会ったのが、コスプレ。丁寧にコスプレの説明をしてもらったり、あらゆる世代の人が分け隔てなく話をするフレンドリーな雰囲気魅せられたそうです。

趣味や共通の話題でつながる友だちや恋人が欲しいとの理由で始めた人が多いことにも気づきました。キャラクターになりきるのが上手な人同士の結婚もよくあり、コスプレという行為を通じていろんな人とのコミュニケーションを楽しむことが目的で、ただ目立ちたいだけの自分勝手な行為でないことを世間に理解してもらおう試みを、ヒルサイドで行う予定です。「コスプレ」には国際交流、福祉、現代芸術文化など、様々な可能性があります。普段見知る機会のない世界に触れてください。

■ヒルサイド市民参加事務局

TEL:045-662-6482(月～金:午前10時～午後5時)※祝日を除く

FAX:045-662-6483 E-mail:hill@yokohama150.jp

「たねまる」オフィシャルグッズのオンリーショップ、ついにオープン！

「開国博Y150」の開幕まで、2か月余り。
開幕まで期間限定で、より多くの方々に横浜開港150周年記念事業マスコットキャラクター「たねまる」をご愛顧頂くために、オフィシャルグッズを全品種（約300品種）を取り揃えたオンリーショップを2月24日、横浜開港150周年協会 内 1階 横浜港 PRコーナー・奥 に開設しました。（※4月24日（金）までの期間限定）

全品種の揃った Only & One なショップです！「たねまる 01 ゼロ・ワン ショップ」！！
ぜひお立ち寄り下さい！

- 営業時間：（月）～（金）11:00～16:00（土）（日）（祝）休業
- TEL：045-489-4472 FAX：045-489-4473
- 場所：（財）横浜開港150周年協会 内 1階 横浜港PRコーナー・奥

商品など詳細に関しましては【たねまるドットコム】www.tanemaru.com まで

横浜開港150周年記念事業マスコットキャラクター「たねまる」
tanemaru YOKOHAMA
たねまる 01 ショップ 開設!!
お待たせしました!! 待望のオフィシャルグッズを全商品取り揃えた「たねまる」のオンリーショップが登場!!
【お取扱商品カテゴリー】
●ストラップ ●横付け ●キーホルダー ●ぬいぐるみ ●ステーションナリー
●お菓子 ●雑貨 ●ピンズ ●ハンカチ ●タオル ●Tシャツ ●その他
【ご案内】
たねまる 01 ショップ
●営業時間：（月）～（金）11:00～16:00（土）（日）（祝）休業
●Tel:045-489-4472 Fax:045-489-4473
●場所：（財）横浜開港150周年協会 内 1F 横浜港 PRコーナー・奥 〒231-0001 横浜市中区新港1-6-3
2009年4月24日（金）までの期間限定
【お問い合わせ先】横浜開港150周年マスターライセンスオフィス 〒231-0001 神奈川県横浜市中区新港1-6-3 Tel:045-489-4472 Fax:045-489-4473
詳しくは・・・「たねまる」の公式サイト【たねまるドットコム】www.tanemaru.com

●「開国博Y150」会期中 「たねまる」グッズは、以下 公式記念品ショップ 3 店舗で販売します。

- 【ベイサイドエリア】 赤レンガ広場店 （約500㎡）
Y150 はじまりの森店 （約200㎡）
- 【ヒルサイドエリア】 Y150 つながりの森店 （約200㎡）（一部飲食を含む）

お問い合わせ先 横浜開港150周年マスターライセンスオフィス
TEL: 045-489-4472 FAX: 045-489-4473
〒231-0001 神奈川県横浜市中区新港1-6-3
横浜開港150周年協会 内 2階

開国博Y150 横浜歴史コラム(第4回) 「横浜歴史の生き証人 玉楠の木」

横浜開港資料館の中庭にあるタブノキは、通称「玉楠(たまぐす)」と呼ばれています。「たまぐす」は、江戸時代、横浜が小さな農漁村であったころからこの地にあり、1854年(安政元年)のペリー来航時に随行画家ハイネが描いた「横浜上陸」や、「水神の祠」に描かれた木がこれにあたると考えられています。

関内地区に大きな被害をもたらした1866年(慶応2年)の大火によって、「たまぐす」は樹形が変わるほど焼失してしまいました。大火に先立ち、水神の森周辺は領事館用地に指定されていたので、被害をうけた「たまぐす」は、イギリス領事館(現:横浜開港資料館)の庭で新たな芽をふくことになりました。そして、明治・大正期を通じて著名な名木に成長します。ある資料には「開港の当時ペリリ提督初めて上陸せしハ此玉楠の下なり、今は英国領事館構内にあり、横浜市の記念名木として市の保存に係る、数百年を経たる大樹なり」と記録されています。

1923年(大正12年)9月1日、関東大震災で、「たまぐす」はふたたび大きな被害をうけますが、その生命は絶えることはありませんでした。何度も大きな被害をくぐり抜けた「たまぐす」は、1981年(昭和56年)日米和親条約締結の地に開館した横浜開港資料館を象徴する有形文化財として、そして近代横浜の生き証人として、今日もうるおいのある光景を与えています。

現在、「タマクスの木」の精として、横浜開港150周年記念事業マスコットキャラクター「たねまる」が次の150年に向けて新しい「チカラのたね」を乗せ、「出航」します。



横浜開港資料館
「玉楠の木」



ハイネ画
「ペリー提督・将兵の上陸図」



マスコットキャラクター
「たねまる」

<監修> 斎藤多喜夫(元横浜開港資料館調査研究員)

<参考> 神奈川新聞社「神奈川新聞」(2007/06/02付)

開国博Y150 横浜はじめて物語(第4回) 外国郵便発祥地

開港当初の外国郵便業務は、フォワード・エイジェントと呼ばれる商社の手で行われていました。やがて領事館に郵便係が置かれ、さらに各国郵便局が設置されました。

1871年(明治4年)3月1日、郵便制度が創始。外国から日本人宛に送られてくる郵便物については、外国郵便局の私書箱の一つを駅逓寮が借り受けて配達したり、日本人が海外に差し出す郵便物は、駅逓寮が仲介して外国郵便局から発送したりしました。駅逓頭・前島密は、外国郵便をも日本政府の管轄下に置くために、米公使デ・ロングの推薦でブライアンを雇用し、アメリカへ派遣、交渉の結果、1873年(明治6年)8月、日米郵便交換条約が締結。1875年(明治8年)1月にアメリカ郵便局が廃止され、新設の横浜郵便局に業務が移管。5日には外国郵便開業式が盛大に行われました。初代の外国郵便課長に就任したのはブライアンでした。1874年(明治7年)10月、万国郵便連合が発足、1877年(明治10年)6月、日本も加盟しました。その結果、1879年(明治12年)12月にはイギリス、翌年3月にはフランスの各郵便局が廃止され、外国郵便業務はすべて日本政府の管轄下に置かれることになりました。



「横浜郵便局」
現在の県庁旧庁舎敷地内にあった

<監修> 斎藤多喜夫(元横浜開港資料館調査研究員)

<出典> 横浜開港資料館「横浜もののはじめ考」(P144)

報道関係者からの問い合わせ先
開国博Y150広報事務局 金垣・麦谷・平手
TEL 03-3403-5139 FAX 03-3403-0508